

社会福祉法人 関西中央福祉会
平成リハビリテーション専門学校

第7回 学校関係者評価委員会 議事録

1. 開催日時 令和6年11月 7日（木）19時00分～19時50分

2. 会議出席者

松本 憲作 (淀川平成病院 理学療法士)
田山 大介 (西宮回生病院 作業療法士)
井上 真一 (神戸平成病院 言語聴覚士)
池上 淳 (卒業生代表 同窓会会長)
小西 朋恵 (在校生 保護者代表)

3. 陪席者

藤本 陽子 (副校長)
松村 竜誠 (理学療法学科 学科長)
七谷 倫子 (作業療法学科 学科長)
青木 崇 (言語聴覚療法学科 学科長)
奥田 秀樹 (事務長)

4. 会議の場所

兵庫県西宮市津門西口町2-26 平成リハビリテーション専門学校内
Web 会議方式にて実施

5. 審議・議題事項

開催にあたり、各委員及び当校役職者の紹介を行う。

続いて今回の議長の推薦をはかったところ、議長を青木学科長、書記を奥田事務長で推薦することを決め議事審議に入る

議案1. あいサポーター養成講座の取り組みについて

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う

- ・昨年度委員会で報告していた実施予定分について、今年度実施があったので報告を行う
- ・「あいサポーター」趣旨説明
- ・「あいサポーター養成講座」の概略説明
- ・実施された内容についての概略
- ・当事者（聴覚障害）および手話通訳者も参加
- ・今年度の実施予定日

委員よりのご意見・ご質問について

- ・医療現場でリハビリ中での手話の重要性を実感した経験上、学生の時期からの学びは必要であるし重要なものだと考える
- ・動画を後から他の参加していない学生に閲覧できればよかったのではないかと思われる

学校担当教員より回答

- ・今回は録画の準備をしていなかったが、実施動画の視聴やその動画を利用した養成講座の開催などの今後機会を増やしていきたい
- ・今回はサポーター講座の養成であったので、次回は他学年でも実施できる機会を検討していきたい

議案2. 退学者数減少に向けての取組み

スライドの資料に基づき、藤本副校長より説明を行う。

- ・ 当校の自己評価においても、前回評価で評価が低かった
- ・ 1年生時点での退学者が多い
- ・ 前期課程後の成績が思わしくない学生が退学に至ってしまう傾向
- ・ 定期試験の結果から判断、入学時の思っていた以上の学業成果維持の難しさ
- ・ 勉強習慣の重要性（各学科による週末課題の提示と実施）
- ・ 再試科目の補講実施
- ・ 今年度より開始の学習アプリの利用と結果、および今後の予定
- ・ 現状の学生の状況を説明しこれからの対策
- ・ 今年度より臨床心理士による講義実施（対人援助専門職になる第一歩）
- ・ 見学実習前のイメージ作りを兼ねた講義実施
- ・ 昨年度と比較した今年度の退学者状況

委員よりのご意見・ご質問について

- ・ 近年の若者の特徴「見切りが早い」
- ・ 仕事への想像力と学業がリンクしていないように思われる場面がある
- ・ 1年の見学実習時からもう少し具体的な場면을イメージできるような工夫が必要では

学校担当教員より回答

- ・ 実習に行ってからモチベーションが上がる学生、下がる学生が見られる
- ・ 学校でも現場での方向性をはっきり学生に示せれるような指導が必要

(その他 ご意見など)

委員よりのご意見等について

- ・ 実習時、学生が投げやりになるときがある
- ・ 実習指導者から褒められた際は学生もモチベーションアップにつながる
- ・ 内定後の国試不合格について採用側にも問題がある。採用側もしっかり事前の見極めが必要
- ・ インターンを導入すれば、面接だけでは把握できなかった部分をフォローできるのではないか

藤本副校長より次回委員会開催予定の説明と参加のお願いを行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。